

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版  
2021年度 授業実践事例

社会科・地歴科・公民科 高等学校第I学年

社会問題をとらえる「探究」のための「問いの構成」

授業者 阿部 哲久

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

## 高等学校 公民科（公共） 学習指導案

指導者 阿部 哲久

日時	令和3年11月27日（土） 第1限 9:30～10:20
場所	第1社会科教室
学年・組	高等学校I年1組42人（男子20人 女子22人）
単元	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち
目標	1.働き方をめぐる議論を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。（知識・技能） 2. 幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、合意形成や社会参画を視野に入れながら、主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。（思考・判断・表現） 3. よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

**指導計画**（全10時間） 「私たちは将来どのような働き方をするのだろうか」（単元を貫く問い）

第1次	働き方の課題と将来を考えよう（単元の導入）	（1時間）
第2次	なぜ様々な働き方があるのだろうか（比較優位とは何か）	（2時間）
第3次	分業からの排除を無くすには？	（2時間）
第4次	所得格差はどうすべきか	（2時間） 本時2／2
第5次	国際社会ではどうだろう	（1時間）
第6次	私たちの働く社会はどうなっていくか	（1時間）
第7次	私たちは将来どんな働き方をするのだろうか（単元のまとめ）	（1時間）

### 授業について

新科目「公共」の内容Bのうち、経済に関わる内容を「老後の備えはどうすべきか」「私たちは将来どんな働き方をするのだろうか」の2つの小単元で構成することを想定した。主権者育成として合意を視野に入れた議論が重視される「公共」では、帰結主義や義務論などの「選択・判断の手掛かり」が示され、判断基準を自覚できることが意図されているが、一方で「事実を基に」した議論でなくてはならないことも強調されている。主権者としてより良い議論を行うためには知識を獲得するだけではなく、事実認識に対する真摯な態度が必要となる。それはジレンマの背景を「探究」し、全員が満足できるわけではない合意を「引き受け」ることでもある。本授業では、様々な対立が顕在化する社会の中で「生涯にわたって探究を深める未来の創り手（高等学校学習指導要領の改訂のポイント）」として「対立をこえる」力を育成することをめざしたい。

**題目** 社会問題をとらえる「探究」のための「問いの構成」

### 本時の目標

1. 分業と交換によって双方に利益が生まれるとともに所得格差が生じるしくみを理解する。  
（知識・技能）
2. 幸福、正義、公正などに着目して、成長と所得格差がセットとなるジレンマをどう引き受け  
ていくべきか考察し議論する。  
（思考・判断・表現）

## 本時の評価規準（観点／方法）

1. 分業と交換によって双方に利益が生まれるとともに所得格差が生じるしくみを理解している。  
(知識・技能／ワークシート, 定期テスト (後日))
2. 幸福, 正義, 公正などに着目して, 成長と所得格差がセットとなるジレンマをどう引き受けていくべきか考察し議論する。  
(思考・判断・表現／ワークシート, 定期テスト (後日))

## 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p>○分業と交換で誰もが豊かになれるはずなのに所得格差が生じるのは「なぜ」だろうか。</p> <p>◎「所得格差は許されるか」</p> <p>○なぜ所得再分配政策が行われているのか。</p> <p>○生産性の差によって生じる所得格差は「どうすべき」だろうか。具体的な再分配政策を提案しよう。</p> <p>○「なぜ」合意が難しいのか。</p> <p>○仮の合意をしよう。</p> <p>○選択した政策が採用された場合, 残された負荷に対して「これからどうしなければならぬか」考察しよう。</p> <p>○発表しよう。</p>	<p>○比較優位のメカニズムはお金を介在させる場合には等価交換が前提となり, 誰もが豊かにはなるが生産性の差によって所得格差が生じる (自由な交易で少し豊かになる人とより豊かになる人がいる) ことを理解する。</p> <p>○財産権があるにもかかわらず再分配政策が行われる理由として, 生産性の高い人の所得が高いのは自分より生産性の低い人との交換によって得られていることもあげることができることを理解する。</p> <p>○様々な立場についてロールプレイを行い, 経済のしくみを生かしつつ所得格差によって生じる問題を解決するための社会制度を考察する。</p> <p>○成長と格差拡大がセットとなるメカニズム (=ジレンマ) を確認する。</p> <p>○議論を通じてグループでの結論を決める。</p> <p>○合意後の課題について議論し, 検討する。</p> <p>○制度の提案と合わせて発表する。</p> <p>○相互評価を行う。</p>	<p>○前時までの内容を想起させる。</p> <p>○再分配の必要性を経済学の視点から根拠づけさせる。</p> <p>○同時に権利の問題として相対的貧困などの概念にも触れる。</p> <p>○具体的に制度を考えさせるようにする。</p> <p>○まずは功利主義的にあらゆる立場の人の幸福を目指し, その上で義務論的に問題がないかチェックを行うよう指示する。必要に応じて話し合いを支援する。</p> <p>○誰にも負荷の無い選択肢がないこと, そのことを引き受けて合意を行う必要があることをおさえる。</p> <p>○特定の立場を軽視するような内容があれば指導する。</p> <p>○最低賃金や労働法制などにふれ, 法制度の役割と限界についても検討させる。</p> <p>○合意によって問題が終わらないことを意識させる。</p> <p>○評価する。</p>
備考		

## 実践上の留意点

本授業は、新科目「公共」の内容 B の経済に関わる内容を「私たちは将来どんな働き方をするのだろうか」という単元を貫く問いで構成した 11 時間の単元の一部である。単元全体の指導案等詳細については、「公共」の授業モデルとして別途本校紀要 (No. 68, 2021) に掲載しているので参照されたい。

単元の中では導入として生徒自身による課題の検討の時間を設けて自分ごととして課題を捉えさせる時間を設けている。また、直感的な理解が難しい比較優位の理論を学ぶために、実際にハサミで紙を切るなどの作業をともなうゲームを行い、その上で物語形式での理論の学習を行った。課題の把握と専門的な理論の学習に基づいて、「理論や概念を働かせて」社会的な諸課題について検討させ議論させる構成 (図 1) としている。図中の I の段階で自分ごととして認識できるようにさせ、II の段階で理論や概念をしっかりと理解させておくことが大切である。

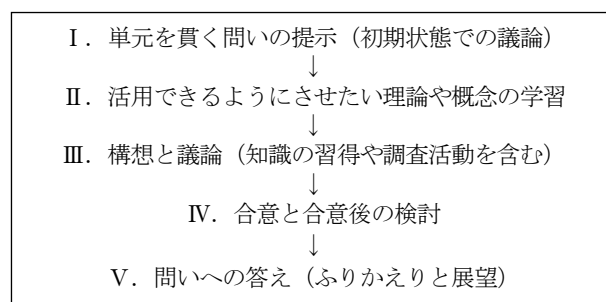


図 1 基本的な単元構成

その上で生徒たちが議論する場面 (図中 III~IV に該当) として第 3 次では「分業からの排除を無くすには？」を問いとして就業における女性差別や障害者差別について、「理論的には差別無く分業に参加できる社会の方が利益も増すにもかかわらずなぜそのようになっていないのか、どうすべきなのか」を考えさせ、第 4 次である本時では比較優位の理論が内包する「分業ですべての人が豊かになれるが格差は拡大する」というジレンマをもとにどのような社会制度を選択するのかを検討させた。

本授業は 2021 年の本校研究大会で公開授業として実施したが、授業後の協議会では「問いが大きすぎるのではないか」という指摘をいただいた。総合的な検討をさせることを意図した問いであったが検討すべき要素が多すぎて生徒には考えにくい部分があった。

また、問いの大きさだけではなく、「理論が内包するジレンマをどう社会制度に落とし込むか」という問いは生徒にとって相当に高度であることも実感した。

まずは第 3 次のような、「学習した理論から望ましい状態を確定する」⇒「理論が生かされていない現実を把握し原因を考察する」⇒「理論を生かしつつ現実に機能するような社会制度を構想する」という構成の授業によって「理論や概念を働かせて」社会的な諸課題について合意を目指した議論を出来るようにさせることが必要であろう。このような議論を行う力を十分に習得した上で、本時のような理論自体がジレンマを内包した問題についても検討させる事へと進んでいくことが望ましいと考えられる。

なお、難しい課題にもかかわらず生徒はモチベーション高く議論に取り組み、事後のアンケートにおいても自分たちの将来につながる内容について理論に基づいて議論した事の意義を感じたという意見が多く見られた。今後も開発した授業モデルをもとに、政治、法など様々な領域について単元を開発していく必要があると考える。